

分担研究報告書

産褥婦の自殺にかかる状況及び社会的背景に関する研究

分担研究者 大田えりか 聖路加国際大学大学院 国際看護学 教授

研究要旨

妊産婦死亡のデータは、妊娠・出産に関連した原因によるものと定義されており、出産後、うつ病の悪化等により自殺に至った死亡は含まれておらず、これらの全国的な症例数は把握されていない。産褥婦の自殺にかかる状況を把握するため、人口動態統計出生票及び死亡票の突合を行ったが、出生票及び死亡票の氏名情報を用いるにあたって技術的な課題が考えられた。今後、データの精度を向上させつつ、出産後1年未満に産褥婦が自殺した症例について、その属性や自殺時期、地域、両親の社会背景などについて二次解析を行う。

A．研究目的

日本では、妊産婦死亡率は3.8（出産10万対、2015年）と大変低く、医療技術の向上等により年々減少傾向にあったが、多くの先進国と同様、近年は微増、微減を繰り返している。一方、妊産婦死亡のデータは、「妊娠中又は妊娠終了後満42日未満の女性の死亡」であって、妊娠・出産に関連した原因によるものと定義されており、出産後、うつ病の悪化等により自殺に至った死亡は含まれておらず、これらの全国的な症例数は把握されていない。

うつ病等の気分障害が自殺の要因として重要であることが明らかになっており、産褥婦の自殺の状況について、人口動態統計のデータを用いて把握するとともに、当該データを分析することにより、母子保健対策を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

B．研究方法

統計法第33条に基づき、人口動態調査

出生票及び死亡票の調査票情報の提供を厚生労働省に申請し、入手した人口動態調査出生票（2013年、2014年、2015年）、人口動態調査死亡票（2014年、2015年）（外因死である女性（12歳～60歳））を用いて、氏名、生年月日により突合し、児の出生から1年未満に死亡した女性を抽出した。

データの突合にあたっては、調査票情報における氏名、生年月日を用いることから、これらの情報を扱うための倫理申請を行った国立成育医療研究センターにおいて突合作業を進めた。

C．研究結果

人口動態調査出生票及び死亡票については、それぞれ、氏名情報が含まれる出生個票・死亡個票と、氏名情報以外の出生・死亡届や出生・死亡診断書の情報が含まれる出生票・死亡票に分かれていたため、これらの連結方法について検討した。出生票については、都道府県、保健所、市区町村、事件簿番号、児の出生年月日が一致するも

の、死亡票については、都道府県、保健所、市区町村、事件簿番号、死亡年月日が一致するものを連結した。

出生個票・死亡個票における女性の氏名については、同じ者であっても漢字や平仮名の表記が異なることも考えられたため、氏名を1字ずつ分解し、統一した標記に処理した。こうして処理した氏名情報のみを用いて突合を行い、マッチングした調査票情報のうち、出生年月日、死亡年月日の順である件数はその一部であった。

また、氏名情報が含まれる出生個票・死亡個票と、氏名情報以外の情報が含まれる出生票・死亡票について、上記の条件を完全一致して連結した出生票・死亡票を用いて、女性の氏名と生年月日を用いて突合を行った。マッチングした調査票情報のうち、出生年月日、死亡年月日の順である件数はその一部であった。

D．考察

女性の氏名のみを用いて突合した場合、当然、同姓同名による可能性があるため、マッチングの精度を上げるためには、氏名に加えて生年月日の情報も合わせて突合する必要がある。女性の氏名と生年月日を用いて突合するにあたって、出生個票・死亡個票と出生票・死亡票の連結を行ったが、その方法に技術的な課題がないか議論した。出生個票・死亡個票と出生票・死亡票の連結にあたっては、都道府県等の情報が完全一致するものとしたが、市町村において転記する際の入力エラーの可能性のある調査票情報も見受けられ、確率的一致による連結を検討する必要性も考えられた。確率的一致による連結方法として、2つのデータ

ベースに共通して存在する複数の変数のそれぞれの類似度を算出し、算出された値を最終的に統合し、確率的に最も一致率の高いペアをマッチさせる手法（Probabilistic Linkage）が考えられた。

E．結論

出産後1年未満の産褥婦の自殺にかかる状況を把握するため、人口動態調査出生票及び死亡票の突合を行ったが、氏名情報を用いるために、出生個票・死亡個票と、出生票・死亡票の連結作業が必要となり、技術的な課題が挙げられた。データの精度を向上させるため、Probabilistic Linkageにより出生個票・死亡個票を連結することが考えられる。今後、これらにより氏名情報と連結した出生票・死亡票による突合を行い、マッチングした症例を、出産後1年未満に産褥婦が自殺した症例とみなし、その属性（年齢、妊娠週数、出生体重、出生子数等）や出産後における自殺時期、地域、両親の社会背景（婚姻状況、父母の職業等）などについて二次解析を行う。

F．健康危険情報

（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし